

## 烏森トレッキング回想記

### 第十四回

日 程：‘05. 6. 25 (土) ~ 6. 26 (日)

行 程：1日目 湯河原駅～幕山公園～幕山～幕山公園～湯河原駅～真鶴駅～貴船神社  
宮前 泊/民宿「三ッ石」  
2日目 中川一政美術館前～原生林入口～森林遊歩道～ケーブル・真鶴/三ッ石  
～真鶴ケーブルパレス～真鶴駅

メンバー：齋木、米本、山田、吉川、小林、森、磯崎

今回のトレッキングは、山田氏が主宰し、湯河原/幕山登山 (626m)、真鶴半島/原生林ウォークと、前回に続いての海浜歩き。

大谷氏は別行事が重なり欠席するも、会頭が久し振りに参加し、7名出席の大デレゲーション。梅雨真っ盛りの候、懸念された天気は、森氏の参加で余裕綽々、暗雲が立ち去り、初夏の好天に恵まれる。

集合地は、JR東海道線/湯河原駅。

神奈川県の外れ、伊豆半島の根元東端に位置する湯河原は、熱海、伊豆に連なる静かな湯の町として知られ、「さがみの小京都」とも称される。町の南側を流れる千歳川を渡ると静岡県。

三々五々の集まりながら、メンバーの準備は万端、昼食弁当抱えて笑顔で挨拶。姿を隠す透明人間1名居るも、“はは～ん”と合点し、予定を変えて、駅前から幕山公園行きのバスに乗る。

10:00AM 幕山公園入り口に到着。

バス停から公園迄は、なだらかな上り坂の広い舗装路。道の両側には、疎林の林が続き、生い茂る樹々草木は、早、初夏の葉色を装う。

少し歩くと、右手の林に、季節の花、「紫陽花」の群落を発見。

青色の輝きが余りに鮮やかで、早速分け入って、全員で、“チーズ”と唱和する。

幕山公園は幕山山麓を利用した自然園。

園内には約4,000本の紅梅、白梅が植栽され、梅の季節は更に良しと案内されるが、敷地の広さに恵まれ、樹々は伸びやか、蛍が生息すると云う清流も清冽さに溢れ、自然を取り込んだ造園振りに感心する。

山腹のパッドレス（岩場登りのトレーニング壁）を遠望しながら、園内を軽く散策した後、昼食迄は自由な時間。

A-PARTY／齋木、山田、吉川の3氏は山麓逍遥、etc.、B-PARTY／小林、森、磯崎の3氏は、一汗欠きに幕山登山、**残る1名は…**。

A-PARTYの行動は定かならずも、齋木蘆風氏が一端を詠む。

ヒメシヤラの 白き花咲く 峡（かい）の道  
清流の岩場に カトンボ 憩いとり  
汗づくの 登山の道に 風渡る  
崖登る 男の汗と 重装備  
清流の 枯木の枝に 浮具（うき）一つ

B-PARTYは、「白銀ハイキングコース」を“ヒーファー、ハーファー”、搦登る。

やっと辿り着いた山頂は小さな草原で、東南の真鶴半島は、霞もかかるか、うっすらとした外形を見せ、真南に位置する筈の伊豆半島は、角度もあるのか、一切見えず。

**心地良い汗を拭き拭き、記念の写真なんぞを一枚と、順にポーズを取り合う内に、空腹を覚えて、下山時間の遅れに気付く。**

携帯で、A-PARTYに状況報告するや、下山が余りにも遅いので、山田氏が、途中迄迎えに向かったとのびっくり情報、直登コース、「幕山ハイキングコース」をすたこら下る。

<言い訳> 直登しても、12時迄の下山は、当初から無理。その上、時間の掛かる裏道を取り、かつ出足で道を間違えたことはA-PARTYも承知の筈。

**元々曖昧に予想した下山時間に遅れたからと非難するのは、余りにも大人気無く、年長組A-PARTYのいじめでは…、済みませんでした。**

昼食は、各自準備の自慢メニュー。

大樹を日傘に、広い園に据えられた木テーブルに坐り、爽やかな初夏の風を受けながら、ワイワイ、ガヤガヤ楽しい食事。

**NO. 1は、吉川氏の「細君お手製おにぎり」に譲るとしても、NO. 2は、湯河原駅前コンビニ調達「冷氷盛りそば」と自惚れ、何故か、例の御仁は、今頃、駅前、「立ち食いそば」で食事中と確信する。**

湯河原駅に戻り、東海道線を1駅上り、真鶴駅に移動。

またまた、ここでも一騒動。歩きの予定を変え、宿まで、バスで行くことは決まったが、降車すべきバス停が2説に分かれて大紛糾。

バスの運転手に訊ね、宿の女将に電話し確認するも、「宮前」、「貴船神社」共に譲らず、

結局、どちらからも変わらぬ距離と裁定し、祭りで知られる、「貴船神社」下車で円満解決。

駅前コンビニで酒と氷を調達し、笑顔で乗車。

(約1ヶ月後、'05. 7. 28 貴船祭りに参加した船の転覆事故発生)

バス停は、貴船神社の参道入り口前で、やれ嬉しや!、海の臭いが、プーンとする。

談笑中の、漁協関係者らしき男性3名に宿への道を訊ねると、地図迄探してくれる嬉しい応接。

指示に従い、夕食前の腹ごなしには充分過ぎる、急な坂道、石段を上る。

宿は、半島の尾根部から東側、「真鶴港」側に少し下った民家の並びに位置し、眼下の先には、人気が見られぬものの、なお明るさを残す「真鶴・」。更に、その先には、きらきらと海面輝かく「相模の灘」。

さあさあ、民宿、「三ツ石」に、いざ到着。

山の宿とは、装いを異とし、屋根は赤色、壁は白色にペインティングされた海浜の宿。女将の歓迎を受け、入り口直ぐの階段を上る。

部屋は、2階3室が準備され、海からの涼風、爽やかに吹き抜けるベランダでは、どこで先行したか、透明人間／米本氏が読書中。

メンバーは、一応、驚いた風を見せ、慌てず騒がず、エールを交わし、部屋割りに従い、荷を降ろす。

窓外には、先ほど眺めた・の風景が広がり、夕なずみによるものか、海面のダイヤモンド光が、煌めきを増す。

宴は、刺身ふんだん、「海の幸」一杯で、女将の、“久方振りに腕を振るわせてもらいました”との、笑顔の口上聞きながら、旨い旨いと舌鼓。

**【余談43】**真相は、未だ藪の中にあるが、真鶴町で山田氏と女将の確執が噂された。

何でも、山田氏が、宿に予約の電話を入れた際、先方の対応がどこことなくおぼつかず、営業実体を気にし、改めて、民宿協会に、「大事な宿」かどうかの確認を行ったようである。

ところが、どういう理由か、その事が女将の耳に伝わったもようで、さあ大変、気分を害した女将は、“何でしたら、お断わりさせていただいても良うござんすよ”、と臍を曲げ、悔しがらぬ歯ぎしりはケープ真鶴の「三ツ石」付近まで響き渡ったとのことである。

幸いにも、最終、“料理で目にももの見せてやる”ことに心変わりしてくれ、今回の大判振る舞いに至ったものと思われる。

こう云うことはあり得る。山梨／初狩、「破魔射場」の予約時も同様で、大女将の対応振

りが気になり、よっぽど確認しようと思ったが、何故か、電話の先に、古びた“囲炉裏部屋”が見え隠れしたため、“面白そう”と打ちちゃった記憶がある。

全員、ベランダのある部屋に集まり、いつもの二次会。

横開きの硝子戸を目一杯開け放つと、爽やかな海からの「風」が通り、口に含むロックウイスキーが一層まるやか、懐古談に花を咲かせて大笑い。

夜が更け、火照る体に、浴衣の袖を肩迄たくし上げる頃、リーダーは、近隣への影響を女将に確認する気遣いを見せる。

ムニャ、ムニャ…、畜生、蚊が…、パチーン、…寝られねーよ！、ムニャ、ムニャ…、スースー。

あれ、いつの間にか夜が明けている…、「日の出」を見逃したよ！

翌日も好天に恵まれ、コース確認も兼ね、朝食前に早朝散歩。

意外なるか、少し上った半島尾根部には広い舗装路が走り、道の両側に民家が連なる住宅街。

通りの向かいに見慣れた標識ポールを見つけ、細目で焦点合わせすると、バ\*停「済度」とか、「ケープ\*鶴行き」とかの悪夢文字。

慌てて眼を反らし、口数少なく、逆方向へ歩く。

パーティは2班に分かれ、先発の山田、吉川、小林、森、磯崎組は、なお、人の往来少ない尾根路を歩き、中川一政美術館前から、樹林に覆われた「お林遊歩道」に入り、真鶴岬に抜ける。

意外の近距離に、若干、拍子抜けするが、更に、急な石段を下り、磯の岩場で小休止。眼前には、笠島とも呼ばれる巨岩、「三ツ石」が並び、その先は、「太平洋」。

早朝から訪れた家族連れは、早、磯の浅瀬に入り、貝を拾ったり、小蟹を探したりと、楽しそうに戯れる。

メンバーは泰然、岩に腰掛け、お茶を沸かして悠々休む。

時間を見計らい、岬に登り返すと、間無く、後陣、齋木、米本組が、若干、遅れて到着。

宿での、出発前の一勝負、厳しい「コウ争い」があったか、あるいは、“もう一番”が繰り返されたか、更には、ベランダの浜風が余りに心地良かったか。

汗ばむ候に、真鶴ケープパレス1階で、「ソフト・クリーム」を賞味。

なかなか美味しくながら、付される冷水はそれ以上に旨く、留まるところなしに、“お変わ

り”が続く。

昼食時間迄を、自由時間とし、再度、散会。

齋木、米本の後陣組は、「中川一政美術館」を訪ね、山田、小林、森組は、原生林の森を散策。吉川、磯崎組は岬の大樹の下で、一眠り。

真鶴ケーブルパレス／2階レストランに再集し、ビール付きの「バーベキューセット」で中食。

混雑を予想し早めに入場するが、意外や、昼食時に入っても利用客は少なく、可愛い女性店員さんの笑顔を独占して、ワイワイ、ガヤガヤ楽しいランチ。

定期バスで、尾根道を走り、JR 真鶴駅へ向かうが、**幸甚かな、例のバス停に気付くメンバーは居らず、何事もないまま、真鶴駅に到着し、全員、東海道線／東京行きに乗車。**

今回、神奈川組は、家が近く、山田、齋木、米本、磯崎の順で抜けていく。